

## 自動車排気ガス測定結果

年度	測定場所	二酸化窒素(NO <sub>2</sub> )						一酸化窒素(NO)			窒素酸化物(NO+NO <sub>2</sub> )			
		年平均値	環境基準との対比				1時間値の最高値	前年度の年平均値	年平均値	1時間値の最高値	前年度の年平均値	年平均値	1時間値の最高値	NO <sub>2</sub> /NO+NO <sub>2</sub> (年平均値)
			1日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合	1日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		(ppm)								
(ppm)	(日)	(%)	(日)	(%)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(%)		
28	国設飛島自動車交通環境測定所	0.024	0	0	14	3.9	0.072	0.024	0.023	0.233	0.028	0.047	0.305	50.7
	全県平均	0.017	-	-	-	-	-	0.019	0.011	-	0.013	0.028	-	-

※愛知県環境局「あいちの環境」より抜粋

環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。(昭和53年7月11日環境庁告示)

ppm：100万分中のいくつであるかを示す分率で、ごく微量の物質の濃度や含有量を表す。  
大気汚染では1m<sup>3</sup>の大気中に1cm<sup>3</sup>の汚染物質が含まれている状態を1ppmで表す。

### 二酸化窒素(NO<sub>2</sub>)

大気中の窒素酸化物の主要成分。物の燃焼で発生した一酸化窒素が空気中で酸化して生成する。窒素酸化物の毒性の主要成分である。

### 一酸化窒素(NO)

窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)の一つ。物が燃焼する時に発生する窒素酸化物は、はじめ90%以上がNOとして発生するが、大気中で酸化されNO<sub>2</sub>に変化する。光化学スモッグや酸性雨の成因に関連する。

### 窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)

空気中で石油や石炭等の物の燃焼、合成、分解等の処理を行うとその過程で必ず発生するもの、燃焼温度が高温になるほど多量に発生する。窒素酸化物は人の健康に影響を与える。また、窒素酸化物は紫外線により炭化水素と光化学反応を起こし、オゾンなど光化学オキシダントを生成する。